

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4423
24年2月13日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

24春闘 全社員の 賃上げを勝ち取ろう

おはようございます。

4年ぶりの通常開催となるランタンフェスティバルが開催中です。コロナの制限も無くなりランタンの期間中、長崎は大いに賑わう事でしょう。

一昨年から続く物価高は収まることなく、24春闘がスタートしました。昨年の春闘での賃上げが物価高に追いつかず実質賃金はマイナスが続いています。

春闘(しゅんとう)とは、春季生活闘争の略語で、日本における労働運動の一環です。賃上げや労働時間の短縮などといった労働条件の改善を求めて、労働組合と企業間で労使交渉が行われます。賃上げは賃金水準を一律に引き上げるベースアップと、勤続年数が上がる

ごとに増える定期昇給からなります。

ベースアップは略して「ベア」と呼ばれ、基本給(ベース)の水準を上げる(アップ)ことです。春闘では、従業員の年齢や勤続年数、仕事ぶりなどに関係なく、全従業員の基本給を一齐に引き上げるこの「ベア」が大きな争点となります。



春闘のスケジュールは、1月から2月にかけて開催される中央委員会などで春闘方針が決定され、その後、労働組合が会社に対して要求書を提出して実際の労使交渉が開始されます。3月中旬ごろ大企業からの回答が集中するのが一般的で中小企業からはそれ以降に回答されます。2024年春闘の回答結果は、賃上げに関して4月の給与から反映され、郵政では例年7月の給与で4月に遡り

精算されます。また、労働条件変更に伴う就業規則改訂は10月1日に行われます。

さて、今年の春闘です。各組合が高水準の「ベア」を要求しています。二輪大手のヤマハ発動機の労働組合は1万1千円のベースアップ(ベア)を含む、1万7,400円の賃金改善を求めるとを決めたと明らかにしました。前年はベアで7千円を求め、要求を上回る9千円の回答を得ています。今年も物価上昇が進んだため、前年を上回る要求としています。



川崎重工労働組合は、今春闘の要求として月1万8千円の賃上げ(賃上げ率は5.33%)を求め、要求書を提出しています。昨年の春闘では月1万4千円の賃上げを要求したのに対して、19

74年以来、49年ぶりの満額回答でした。ほかの重工大手の三菱重工業IHIの労働組合も要求書を提出し、月1万8千円の賃上げを要求しています。

JR東海の最大の労働組合「JR東海ユニオン」は9日、月1万円(約3%)の基本給ベースアップ(ベア)を軸とする今春闘の要求書を経営側に出しました。

1万円以上のベア要求は、1995年に1万200円を求めて以来だとしています。

日本製鉄労働組合連合会は「基本賃金の1人あたり3万円改善」を柱とする今春闘の要求書を経営側へ提出しました。

春闘相場をリードすると言われるトヨタ自動車労働組合は9日、2024年春闘要求を正式決定しています。賃上げ要求額は、定期昇給分と基本給を底上げするベースアップ(ベア)に相当する「賃金改善分」を合わせて1人当たり月7940〜2万8440円で、比較可能な1999年以降で最高となっています。

また、ボーナスにあたる一時金についても過去最高となる7.6カ月分を要求するとなっています。



郵政ユニオンは2月2日に第12回中央委員会を開催し、春闘方針を決定しました。

昨年の23春闘回答では「基本給を底上げするベースアップ(ベア)を月4800円実施、定期昇給と特別一時金を加えた賃上げ率は5.11%」と報道されていますが、実際は正社員の夏期冬期休暇が最大4日(夏期2日、冬期2日)削減され、非正規社員に関しては、特別一時金は支給されたものの賃上げに関しては「ベア0」でした。

24春闘では昨年以上に賃上げムードは高まっています。郵政ユニオンは正規、非正規関係なく全社員の賃上げを勝ち取るために24春闘をたかいます。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員が正社員化を。

ゆげ、均等待遇、なげん差別。ユニオンは労基法裁判に勝利する。